

うめその
梅園神社の獅子舞

当社は元は小杉天神社または天満宮と呼ばれており、観応元年(1350)～嘉永5年(1853)までの25枚の棟札が現存しています。明治40年に堂山の近戸神社、上谷の三島神社を合祀して、社号を梅園神社に改称しました。

獅子舞の由来については、飯能市高山の三輪神社に奉納されている獅子舞「高山の獅子舞」(飯能市指定文化財)からの伝授と伝わっています。昭和30年代初め頃から後継者不足などを理由に中断されていましたが、昭和50年に200戸を超える氏子たちの寄付や熱意によって復活しました。



宵祭の梅園神社 (2019年撮影)

進行と演目 伝承されている演目は5庭

「庭摺り(幣掛り)」は本祭に獅子宿で舞われ、この年に獅子舞に仲間入りする子どもたちが演じます。

「一つ回り(一つ鞠)」は神社への奉納舞とされています。

「三つ回り(三つ鞠)」は2本の笹竹に吊り下げられた3つの鞠で、三獅子が楽しく遊び戯れる舞です。

「雌獅子隠し」は雌獅子を奪い合う激しい喧嘩で、青年の獅子を表していると考えられています。

「白刃」は大獅子と中獅子が太刀を咥えて互いに切り込む喧嘩です。やがて喧嘩が終わると太刀が外され、雌獅子が2本の太刀を持って三番叟を舞います。

役と衣装

大獅子…黒塗で頭部に2本の鹿角、白毛、たれ耳、こばた(和紙で作られた獅子の髪の毛)は白。

雌獅子…朱塗で頭部に宝珠、たれ耳、茶毛、こばたは赤と黄色。

中獅子…赤銅色で頭部に金、赤、黒のねじり角2本、たれ耳、茶毛、こばたは緑、紫。

3頭とも腹に三つ巴紋を描く太鼓をつけて両手にバチを持ち、白足袋に草履を履く。雌雄で、衣装や水引幕(鋸歯模様と



『白刃』(2019年撮影)

梅鉢紋)の色が異なる。

花子…梅鉢紋がついた四角形の花台に紙の飾り花を立てて、赤布を垂らす。籠をかき鳴らす。女子が務める。

はいおい…手ぬぐいで頬被りして福面や翁面を頭にのせる。それぞれが必ず軍配を持ち、もう一方の手で幣束か陽物を持って指導に当たる。

保存会員…黄土色の地で下部に三つ巴紋、黒襟に「梅園神社/子舞保存会」、背中に梅鉢紋が入った半天を着る。

ひがしやま
東山神社の獅子舞

当社は福寿山多門寺(入間郡上野)の境内社諏訪神社として、応仁2年(1468)に住僧の空伝が、当寺の地中鎮護のために創建したと伝えられています。明治45年(1912)に、当地に移されて改称されました。

獅子舞の由来については、室町時代に、多門寺住職の教伝が秩父地方から習得したと伝わっています。戦後になって昭和27年と同34年に行われた後途絶え、同50年に復活し、翌年11月23日には社殿の改修造営記念で奉納されました。



本祭の東山神社 (2019年撮影)

進行と演目 伝承されている演目は5庭

「宮参り」は、獅子や花子などが社殿の周りをまわります。

「すっこみ」は、花掛りの一部分を舞います。

「花掛り」は、花の中で三獅子が楽しく踊り遊ぶ舞です。

「願獅子(願ささら)」は、花代をあげて願い事を祈願してもらう舞で、社殿の周りをまわります。

「竿(棹)掛り」は竿を大きな谷間という障害物に見立て、谷の向こう側にいる雌獅子に向かって、中獅子と大獅子が何度も竿を押し渡ろうとします。

役と衣装

大獅子…黒塗で角に金色の段を刻む2本角、たれ耳、白毛、和紙で作られた白のたてがみを垂らす。

雌獅子…朱塗で頭頂部に宝珠、たれ耳、赤毛、和紙に刷毛塗りされた赤色のたてがみを垂らす。

中獅子…青い顔で角に金色の段を刻む2本角、たれ耳、黒毛、和紙に刷毛塗りされた青のたてがみを垂らす。

3頭とも腹に三つ巴紋を描く太鼓をつけて両手にバチを持つ。上衣は、大獅子が白、雌獅子が赤、中獅子が青の長袖を着る。たっつけ袴や黒足袋、草鞋は3頭とも同じものを着用する。水引幕には波模様と白丸の中に「諏」「訪」「社」の一字が入っ



『竿(棹)掛り』(2019年撮影)

ている。

花子…三つ巴紋がついた四角形の花台に、御幣や榊、紙の飾り花を立てて、青い布を垂らす。籠をかき鳴らす。町内で唯一男子が務める。

はいおい…水色の手ぬぐいで頬被りして道化面を頭にのせる。それぞれが軍配を持ち、もう一方の手で幣束や陽物を持って指導にあたる。

保存会員…灰色と黒の縞模様で、黒襟に「三つ巴紋/上野まつり/獅子舞保存会」、背中には「亀甲紋に祭」の字が入った丈の長い半天を着る。



おごせに獅子舞が舞う季節

令和5年は全ての獅子舞が再開/越生の獅子舞が勢揃い

埼玉県

県内で一番多く伝承されている民俗芸能は「獅子舞」で、分布は200を超えるといわれています。獅子舞は五穀豊穰や疫病除けの祈願、豊作の感謝、雨乞いや嵐除けのために行われてきました。

獅子の舞い手は全ての庭(演目)を演じられるようになると、村人として一人前であると認められ、大人の仲間入りを果すことができました。

獅子舞は、信仰と通過儀礼という二面を併せ持った、地域の存続繁栄に欠かせない伝統行事として継承されてきました。

越生町教育委員会